
24<水球陣>東日本リーグ第2戦

H27.3.7 対明治大学 @慶應大学日吉プール

明治 4 3 4 3 計14

東大 2 1 0 1 計4

得点者：浪間(1)、山田(3)

負けるとA1ブロックとの入れ替え戦に進むことが難しくなるこの試合。相手は学生リーグ一部の明治大学だが、インカレに出場するにはこのレベルの相手に勝利しなければならない。

第一ピリオド

試合開始直後に守備の要・池亀の退水、パスミスからのカウンター、二対一のカウンターと、立て続けに崩される。5分で4失点する苦しい展開だったがピリオド終盤にカウンターで1年・山田が、さらにはフローティングで主将・浪間が得点し2点差まで追いつける。

第二ピリオド

第一ピリオドに続いてこのピリオドでも開始直後に池亀が退水し失点する。その後の東大のオフェンスは消極的になり、焦りからかシュートが枠外に飛んでいく。ピリオドの残り時間が半分を切ったところで明治大学がタイムアウトを要求する。このオフェンスを守り切ると攻防の切り替えしで退水が起こり東大のタイムアウト。このチャンスを山田がものに再び2点差とする。だがオフェンスに精彩を欠く東大は追加点を挙げられず、一方の明治大学は淡々と得点を重ねる。前半終了時点で4点の差がついた。

第三ピリオド

一気に突き放しにかかる明治大学はカットインからのシューやフローティングシュートで連続で得点する。東大も池亀のシュートや退水の誘発などでチャンスは作るも得点には至らない。逆にピリオド終盤に退水やカウンターで失点し、その差を7点に広げられた。

第四ピリオド

1点でも差を詰めたい東大は序盤から2年・梶原、1年・山田とシュートを狙うが決めきれない。さらにペナルティースローのチャンスを浪間が外してしまう。試合を優位に進める明治大学はこのピリオドでさらに3点を追加する。残り20秒で再び山田が得点し1点を返すも10点差の大敗となった。

前の試合とは違い、圧倒的な力の差を見せつけられた試合となった。序盤から悪い形での失点が目立ち、相手チームがメンバーを替えてきても失点を減らすことができない。オフェンスも浪間が抑えられると得点源がなくなり、外周の決定力不足が目立った試合だった。この敗戦を夏に向けた練習の糧としたい。監督を務めてくださった下東さん、会場まで足を運んでくださった林裕三さん、岩村さん、滝沢監督、轟さん、菜々さん、只野さん、ありがとうございました。

(文責 山田直人)

=====